

2017年
6月19日
月曜日

先日、学会出張で福岡県久留米市を訪れた。久留米市は福岡県の県庁所在地である福岡市から西鉄で数十分ほど南に下った中核都市である。ゴム靴（運動靴）のメーカーで知られる、月星（ムーンスター）やアサヒコーポレーションなど、ゴム加工品産業の工場があり、タイヤメーカーで知られているブリジストンの創業の地として知られる。また、元祖とんこつラーメンの「久留米ラーメン」や「焼き鳥店」が多いことでも有名である。久留米市の中心的な商業地区は、西鉄久留米駅付近の繁華街である。どこの地方都市を訪れても感じるのだが、久留米市では週末の夜と言えども、それほどヒトでの賑わいはなく、営業中の店も多くはないので、日本全体の地方都市に広がる少子高齢化と人口減少を感じる。

新海 哲哉 教授（産業組織論）

少子高齢化・人口減少とヒトの繋がりと経済

しかし地方都市では、食事をしに入った店の店員さんや食事に来ている地元の人々、タクシーやバスの運転手さん、乗車したバスの中で意図せず耳に入る知り合いらしい老人たちの会話からは、比較的人口の多い大都市とその周辺の住人である我々にはない、ヒトへの優しさや繋がりを感ずる。地方では工場の合理化や移転で、そこに住む人たちの仕事や所得、人口が減っても、ヒトの繋がりを育み、心を豊かにしている源泉はいったい何なのかと思う。

他方、「衣食足りて礼節を知る」というが、人口と企業が集中し仕事もあり経済的に豊かなはずである都市圏では、自分の子供や家族に暴力をふるい、拳銃のはて殺人事件まで発展するなど「礼節を知らぬ」悲惨な事件が後を絶たない。人々は個人の生活を大切に、家の外での

Face to Faceでの付き合いを減らし、携帯電話やSNSでのコミュニケーションに頼り、特に都会では、同居している家族ですら互いに繋がることが減り、別居、独居が進む。この状況でヒトの繋がりが希薄になっていくと感ずるのは、還暦を過ぎ高齢者の仲間入りが近い私たちの昭和以前の世代だけだろうか。

ここ20年足らずの技術革新は、携帯電話、ウェアラブル端末等の新たなコミュニケーションツールを我々に与え、それにより新たなサービスへの需要と経済活動、仕事と富をもたらす、SNS等を通じた新たなヒトの繋がりを増やした。その反面、SNSによるいじめや言葉の暴力やそれを怖れるがゆえ、ヒトとの距離をおき、個人的生活にこもる、「ヒトの繋がりの希薄化」をももたらした。それに伴い、直にヒトに会って

集い、付き合いそしてときとして家の外で喧嘩して争うという、これまで長年にわたり繰り返してきた、Face to Faceでのヒトの繋がりを減らしてきていると思う。我々経済学者が研究し教える経済学は、「新たな技術革新がもたらす経済成果のみならず、それが我々の構成する社会もたらす効果を評価し、負の効果の是正と正の効果の社会への還元をもたらさしめる社会的制度設計と構築に貢献できるのか」という重い課題を、能力も才能もなく老いてきた自らに問う今日この頃である。